



歴史の道
— 今昔太宰府の文化財 —

今昔太宰府の文化財

(引用文献凡例) (続) 筑前国統風土記.1709年、(附) 筑前国統風土記附録.1798年、(旧) 太宰府旧蹟全図.1806年 (拾) 筑前国統風土記拾遺.1818~1830年、(名) 筑前名所図会.1821年 (地) 福岡縣地理全誌.1880年

かいだんいん
〈戒壇院〉



「寺境ニ護摩堂地藏堂山門鐘樓惣門等アリシカ今ハ廢シテ。鐘樓ノミアリ。菩提樹一株アリ。」(附)
戒壇院は天平宝字5(761)年に設置されたもので、今の本堂は延宝8(1680)年に建築され、平成5年に改修された。

かんぜおんじ
〈観世音寺〉



「清水山観世音寺の後に清泉涌出する所あり、故に清水山の號あり、今ハ天台宗也。」(名)
この寺は、天智天皇が母斉明天皇の供養のために建立を發願し、天平18(746)年に完成した寺院である。

ざるさわのいけ
〈猿澤池〉



「観世音寺の東にあり。水面方五間斗、池中に嶋有て老楠一株植り。」(附)
「ナラノウツシト云」(旧)と記されているが、その由来は詳しく伝わっていない。現在池はなくなっているが、クスノキが残る。

ごりんとう いたび
〈五輪塔と板碑〉



四王寺山麓には多くの五輪塔が散在している。これらの板碑や五輪塔は、周囲から見つかったものを寄せ集めたもので、2個の空風輪は県内屈指の大きさといわれている。

よこけそふくじあと
〈横岳崇福寺跡〉



「其舊地に今、勝禪寺といふ庵あり。庵の傍より石階を登り開山堂あり。大應國師の木像を安置す。勝禪寺の境内に護法祠、白蓮池の邊にあり。」(附)
この寺は仁治元(1240)年に湛慧が建立した、中世の代表的禪宗寺院。

ぜいりんとう
〈瑞雲塔〉



「勝禪寺址。側ニ國師ノ石塔モアリ。」(地)
大応國師が延慶元(1308)年に亡くなった後、弟子たちによって建てられた分骨塔である。

あさひじざう
〈朝日地蔵〉



「湛慧墓は横岳にゆく道の傍に有。此所入定の地なる故、石塔をたて其しるすとす。」(続)
横岳崇福寺を創建した湛慧を葬り祀ったところと伝えられ、現在はお堂の中に祀られている。

せいさつば しんまち
〈制札場と新町〉



江戸時代後半の博多太宰府屏風には、住民に知らせる布告や伝達のための制札場が描かれている。
新町の町並みは、明治18年の大火事以降、藁葺きから白壁の町並みに変わり、現在も変わり続けている。

ゑびすがみ
〈恵比寿神〉



商売繁昌の神として祀られる恵比寿神は市内に30ヶ所ある。文化7(1810)年につくられた小鳥居小路の恵比寿神は、太宰府市内で造られた年代のわかる恵比寿神の中で、最も古いものである。

いわふみかわ
〈岩踏川〉



「村の北の入口を岩踏といふ。此邊川の内に大磐石ありて溪水其上をはしり流る。よりに岩踏川岩湖等の名あり」(拾)
岩石が露出した景勝地として知られていたが、現在は河川改修によって昔の面影は失われている。

〈ヒロハチシャノキ〉



太宰府天満宮のヒロハチシャノキは、日本最大のチャノキ。樹高15.3m、幹周り約6.5m、主幹は空洞になっている。チャノキ材は乾燥に強く、ひび割れや曲がりが少ないため、戦時中は銃床として使用されたこともあった。

〈クスノキ〉



太宰府天満宮の境内は、クスノキが生い茂り、天神の森と言われている。その森の西端にある大樟は高さ28.5m、幹周り11.7mを測り、天満宮境内の最大のクスノキとして国の天然記念物に指定されている。

だざいふてんまんぐうさんどうそつこうあと
〈太宰府天満宮参道側溝跡〉



江戸時代の絵図には、参道が北側にやや広く描かれている。それを物語るように、現在の参道より3mほど北側の店舗の下から、当時の側溝と考えられる石垣が見つかった。

あいろがわ うめつぼしじゅうせいび
〈藍染川と梅壺侍従蘇生碑〉



「光明寺前の小流は即染川なり。其時爰に洩あり。鐵牛の母堂辨君身を投られし所といふ。」[川の中に高三尺余斗の野石面に梵字を彫たるたてり。](拾)
現在も小川とそこに石碑が残っている。

みせりかまめぐらあと
〈溝尻溝口跡〉



甘木・筑豊方面からの溝口で、俗諺に「溝尻の溝尻口の狭いとて 通る人ごとおっせしがっせしがっせしよ」と歌われている。
溝口は小溝の上に大石を掛けその上に土塀が建っていたという。

うさほちまんぐう
〈宇佐八幡宮祠〉



「下町ノ東南一町小山ノ上ニアリ。從前下村ノ産神ナリ。今ハ石祠ナリ。」(地)
昔は大部分の宇佐八幡宮の荘園があったところで、それを物語る石祠が中学校の中庭に残っている。

ごじょうかまめぐらあと
〈五条溝口跡〉



二日市方面からの太宰府の入口にあたり、江戸時代後半の博多太宰府屏風にも描かれ、昭和40年頃まで石垣の上に土塀で造られた溝口が残っていた。
写真はありし日の溝口の土塀。最近の調査でも基礎の石垣が発掘された。

みうら び
〈三浦の碑〉



文政13年(1830)に伊勢の二見浦、紀伊の和歌之浦、筑前箱崎の浦の三浦の清浄な砂でこの地を清め、その行事の記念碑として建てられたのが三浦の碑である。天満宮参詣者は、ここで身を清め太宰府の町中に入った。